

合格への道

受験生へのアドバイス[一般入学試験・前期日程]

2017年度入学試験を振り返って

■出題のねらい

本学の英語入試では、平均して60%程度の正答率を目標に設問を作成しています。設問はだいたい三種類に大別できます。まず、英語の文法や語彙の基礎力を問うもの、随筆などの文章の内容の理解を問うもの、対話文の理解と表現を問うものです。文法や語彙の基礎力を問う設問では、空欄に適語を補充したり、誤っている箇所を指摘したり、正しい語順で英文を構成することを求めています。長文読解問題では、本文の内容に関する質問の答えを選択したり、文脈から判断してふさわしい語を選択させる問題が出題されています。対話文の設問では、場面や前後関係の中で適切な応答表現を選ぶことが求められています。

■答案を採点して

[A日程]

問題の構成は、[I]文法・語法15問、[II]会話文6問、[III]正誤問題4問、[IV]長文読解7問、[V]長文読解9問、[VI]空所補充5問、[VII]語句整序4問でした。平均正答率は、57%(150点満点)、52%(100点満点)でした。[I]では、問題により正答率に大きなばらつきがありました。英文法の基本事項をしっかり理解して、幅広い分野の英文を正確に読めることが大切です。

[B日程]

平均正答率は150点満点利用の場合で約64%、100点満点利用の場合で約59%でした。平易な文章の[I][V]は比較的良好にできていました。しかし、確かな文章理解力と文法力が問われる[II][III][IV]では50%程度の得点にとどまっています。[37]のような単純な問題を受験生の7割が正答できていません。

[C日程]

平均正答率は、150点満点利用の場合で74%、100点満点利用の場合で63%でした。昨年、前者はほぼ同率でしたが、後者は71%でしたので、かなり下がったと言えます。今年最も目を引いたのは[22]で、百貨店の「デパート」が“department store”だということを知らない人があまりにも多かったことです(正答率24%)。カタカナ英語は、多くの場合、正しい英語ではないので、気をつけてください。

■出題のねらい

本学の国語入試では、評論、論説、随筆、小説、古典文学などを題材に出題がなされています。広島修道大学で学んでゆくにあたり、ぜひとも70%以上、正解できるぐらいの国語力があってほしいと考えています。設問は概ね二種類に大別できます。国語の基礎力を問うもの、文章の読解力を問うものです。

現代文の場合、基礎力を試す設問では、漢字の読み書き能力、語彙や文学史についての知識が問われました。読解力を試す設問では、文章全体の要旨や論理展開を把握しているか、または本文中の一節を正確に理解しているかが問われました。特に理解の正確さを試す設問では、当該の部分に関してその理由が問われたり、具体的にそれらがどのようなことを意味しているかが問われたり、あるいはどのような言い換えられるかが問われたりしています。

古文に関して、語彙や文法の知識、あるいは文学史的知識などの基礎的な力を問う設問と、内容の読解に関わる設問になっています。

■答案を採点して

現代文では、全ての日程で漢字の読み書きに関する出題がなされています。漢字の書き取りに関しては、どのように書いているのかがはっきりと読み取れない解答、例えば書かれている横線が一本なのか二本なのか判別し難い解答もありました。試験にあたっては明瞭な書き取りを心がける必要があります。

語彙力に関わる問題も全ての日程で出題されました。慣用語や外来のカタカナ語などに関する知識が問われました。よく耳にする語句でも正確な意味を知らないことがあるようです。日頃から辞書で確認しておくことが大事でしょう。

空欄に語句を補充させる設問も多く出題されました。こうした設問では、文章の論理展開をしっかり押さえないと正解に至ることはできません。例えば、B日程Ⅲの問2は、本文中で対になっているキーワードを選択肢の中から選ばせる問題で、文章の展開をきちんと理解しているかどうか問われています。「場所」と「土地」の違いが話題になっていることをまず押さえ、両者がそれぞれどのような特徴を持っているかを読み取れば、それほど難しい問題ではないでしょう。またD日程Ⅲの問3空欄Xも、文章の展開をきちんと把握していないと間違えてしまう空欄補充

[D日程]

平均正答率は、150点満点利用の場合で60%、100点満点利用の場合で51%でした。空所補充問題で正答率が低かったのは、時を表す副詞表現に関する問題と、be動詞+形容詞+前置詞のコロケーションに関する問題です。長文読解問題で正答率が低かったのは、各段落の趣旨を把握して空所を埋める問題です。接続詞の機能等に注意を払い、論理的に読み解く力を身につけることが重要です。

[E日程]

平均正答率は、150点満点利用の場合で70%、100点満点利用の場合で57%、200点満点利用の場合で66%でした。文法や語彙の基礎力を問う問題の中に正答率の低いものが目立ちました。中でも、disappointやpleaseなどの心理動詞の現在分詞と過去分詞の意味の区別をしておくことが必要です。また、前置詞の基本的な意味を理解し、それがどのような表現の中で使われるかを理解し覚えましょう。

■受験生へのアドバイス

まず、基本的な文法構造や機能語の表す意味を確実に理解する必要があります。例えば、前置詞の場合なら、基本義とそのイメージを理解しておきましょう(わかりやすい解説がなされている辞書も多いです)。そして、その語だけでなく、共起する語と共に覚えましょう。例えば、the bridge over the river, climb over the wallなどのように語句として頭に入れておくといいたいでしょう。丸暗記ではなく、意味をかみしめて発音し記憶することが重要です。

長文や対話文を読解するときは、場面や筆者の意図を常に念頭に置いて読むことが必要です。また、文と文との論理的関係を表す語句(howeverやin shortなど)に特に注意を払いましょう。

英語の力は一朝一夕につくものではありません。しかし、意味を理解して発音すること、辞書を丹念に読むこと、graded readers(易しい英語で書かれた英語図書)や生徒・学生向けに書かれた英字新聞を読むことを継続すれば、着実に身につけていけますよ。

問題です。この設問では、「合理主義」という言葉を修飾するものとして適切な言葉を選択肢から選ばせまします。これについては、「超越的な」を選んでしまう人が大勢いました。本文の中で、「合理性」という言葉が「超越的」という言葉と結びつけられていたからでしょう。けれども、当初その「合理性」には不十分な点があったこと、このことを本文が説明していたのだということを理解するならば、空欄にはそうした不十分さに関係する言葉が入るということに思い至るはずですよ。

古文ではCDEすべての日程で、文法に関する出題がありました。助動詞や助詞、敬語などに関する知識が問われました。特に敬語に関しては誰に対する敬意なのか問われ、間違える人も多かったようです。内容の読解に関する問いでは、文章や語句の意味、和歌の解釈、指示語の対象などが問われました。文学史に関する出題もあり、日記文学の成立時期が問われました。文学史がやや苦手な人もいたようです。

■受験生へのアドバイス

文章を読み解くには、まず筆者が何を主張しようとしているのか、文章の中心となる主題をしっかりとつかむことが大切です。それから、主題と細部との関係をつかんでいこうにしましょう。すると、細部にこだわって、中心を見失うこともなくなるはずですよ。

文章を読み解くことは、皆さんが文章を構成することと同じではないでしょうか。ある主張をどのように組み立てて展開すれば、誤解なく言いたいことを伝えられるか? こうした日頃の関心と、文章を読み解くことは、同じ営みであると言えます。ぜひこれを念頭において、読解に取り組んでみて下さい。

古文についても同じことが言えます。日頃使い慣れない言葉ではあっても、人間関係をおさえつつ、それを表現している語句の品詞や敬語に注意しながら読み解くことは、きっと表現力を養う上で参考になるに違いありません。

本学の国語入試では、特別な力を問おうとはしていません。基本的な知識や理解の上に、日頃からどれだけ文章の組み立てや表現に注意しているか、その結果として、どれぐらいの読解力と表現力を身につけているかを見ようとしています。普段の勉強を大切にしたいと思えます。

■出題のねらい

本学の「世界史」の問題は、東洋史(東アジアから西アジアまでの地域の歴史)から1問、西洋史(ヨーロッパと南北アメリカ大陸の歴史が主ですが、アフリカやオセアニアなどの地域の歴史もここに含めています)から2問の計3問からなります。古代から現代にわたるすべての時代が出題の対象となります。このように地域的にも時代的にも広範囲な世界の歴史について、受験生の理解を幅広く試す問題が出されます。問題は高校で採用されている複数の教科書に準拠して作成され、とくに難しい設問はありません。受験生の平均点が50点から60点程度になるように作られています。問題のなかには複数の地域や広い時代にまたがる内容のものもありますし、また文化、政治、経済などの特定のテーマに関する設問も含まれます。解答形式はマーク解答が大半ですが、毎年、数題は記述解答方式の問題も出題されます。

■答案を採点して

以下に、昨年度出題されたすべての問題のテーマを掲げます。(記述式)という表示のない問題は、すべてマーク解答方式の問題です。

A日程 [I] 古代東南アジア史(11世紀まで) [II] ヨーロッパの戦争と講和の歴史(古代から19世紀まで) (記述式) [III] 第一次世界大戦史

B日程 [I] オスマン帝国史(成立から滅亡まで) (記述式) [II] プラハを中心とするヨーロッパ中世史 [III] 近代ドイツ史(ビスマルクの時代)

C日程 [I] 古代南アジア文化史(ヴェーダ時代から大乘仏教の成立まで) [II] 近代ヨーロッパ史(ピューリタン革命から産業革命まで) [III] ドイツを中心とする第一次世界大戦史

D日程 [I] 20世紀前半の中国史(中華人民共和国の成立まで) [II] 大航海時代のスペイン [III] 19世紀イタリア史

E日程 [I] 古代中国史(前漢・後漢) [II] アメリカ史(建国からオバマ大統領の時代まで) [III] 近代ヨーロッパ政治史(フランス革命から現代まで)

正答率は、マーク解答方式の問題では、A日程43.9%、B日程42.5%、C日程

■出題のねらい

問題の作成にあたっては、受験生の基本的な学力を試すことに主眼をおいています。大部分は、難問ではなく平易な問題を出題して、確実に得点できる力を試そうと考えています。本年度の問題をみますと、A日程は、[I] 平安時代の政治・社会史、[II] 近代文学・美術史、[III] 現代政治史、B日程は、[I] 蝦夷と琉球をめぐる歴史、[II] 江戸時代の庶民の暮らし、[III] 戦後経済史、C日程は、[I] 江戸時代の洋学・国学史、[II] 昭和戦前期の政治・社会史、[III] 高度経済成長期の政治・経済・社会史、D日程は、[I] 平安末～鎌倉時代の政治史、[II] 江戸幕府草創期の以心崇伝をめぐる歴史、[III] 大正～昭和戦前期の文化史、E日程は、[I] 鎌倉文化史、[II] 広島出身の首相に関わらせての政治史、[III] 戦前の学問・言論に対する弾圧の歴史、となります。各日程の出題傾向について、特定のねらいはありません。各試験日ともに、近世以前と近代以降の両方が含まれるように、問題を組みあわせています。現代史や文化史が必ず出題されているのも注意してほしいところです。なお、A～C日程の試験では、正確な理解を試すために、記述式の問題を含めるようにしています。全日程を通じて、教科書をていねいにくりかえし勉強しておけば、対処できる設問となるように心がけています。教科書の表や注の記述、基本的な史料にも十分に注意を払ってください。

■答案を採点して

記述式も含めた平均正答率をみますと、A日程は [I] 68%、[II] 46%、[III] 52%、B日程は [I] 41%、[II] 50%、[III] 47%、C日程は [I] 31%、[II] 60%、[III] 51%、D日程は [I] 80%、[II] 70%、[III] 60%、E日程は [I] 53%、[II] 55%、[III] 44%です。数値的には、記述形式の出題が含まれたA～C日程に、低い問題がめだちますが、それ以外は、ほぼ5割程度以上の正答率となっています。ただ、もう少しその中身を詳しく見てみると、固有名詞を

67.3%、D日程68.1%、E日程54.0%でした。正答率が低いのは、東洋史では東南アジアや南アジアをテーマとする問題、西洋史では一つの国や地域をやや掘り下げて問う問題でした。記述解答方式の問題では、例年と同様に受験生の間で得点にかなりばらつきが出ました。記述問題では、基本的語句(人名・地名・事件や制度の名称など)を教科書の表記にしたがって漢字あるいはカタカナで正しく書くことが求められます。中国史の問題で、漢字で書くべきところをひらかなで解答すると減点の対象となりますし、西洋史の問題でも漢字やカタカナの誤記によって減点されるケースが少なくありません。人名・地名のなかには市販の歴史書や新聞記事の表記方法と教科書の表記方法とが異なるものもありますが、皆さんは教科書の表記方法にしたがって解答してください。

■受験生へのアドバイス

世界史の問題は高校で使用する教科書に準拠して作成されており、皆さんが日頃の勉強をつうじて基本的な事柄を理解しているかどうかを問うものです。基本的な歴史事実を覚え、それらが生じた因果関係を流れとして理解するよう心がけてください。また、ヨーロッパ史や中国史など特定の地域に偏ることなく、南北アメリカ大陸、イスラーム地域、中央アジア・東南アジア・南アジア、さらにアフリカの歴史についても広く学習することが大切です。時代についても古代から現代まで、幅広く歴史の流れを把握するようにしましょう。近現代史では、やや細かい事項の出題が多いので、歴史事典など教科書以外の資料を活用するなどして、正確な知識を身につけて下さい。また記述解答問題に対応するために、教科書の本文にゴチック体で記された基本語句や人名・地名については漢字・カタカナで正確に書けるようにし、試験では漢字表記すべき人名・地名・語句などをひらかなで書くことがないようにしましょう。教科書に掲載されている人物、建築物、事件などを表した絵画、写真、地図などと教科書の本文の記述とを照合して、世界史の動きを立体的に理解することも勧めます。

知っているかどうかを問う設問に関しては正答できても、試験問題の内容に少し応用が加わると、とたんにできなくなってしまうという印象です。特に、その事項の意味や背景、影響などについて、文章形式の選択肢から選ぶ形の設問については、できが悪いようです。ことばの単純な暗記ではなく、物事の意味内容までふみこんだきちんとした理解が求められます。また、記述問題の採点をしますと、うろ覚えでは絶対に対処できないことがはっきりします。誤字や脱字は正答になりません。特に人名など固有名詞は、漢字で書かなければ正答ではありません。教科書の重要な用語は、普段から実際に書くように心がけてほしいと思います。採点の労力を省くにはマークシート形式がいいのですが、受験生の本当の理解度を試すには、記述問題が適しているようで、このような出題を一部に含めていくことは、今後も続けていこうと考えています。記述問題の成否は、日本史の成否も分けているという印象です。基本的な用語については、確実に書けるようにしておきましょう。

■受験生へのアドバイス

過去問をみておかれるのは、一応の出題傾向を知るうえで有効でしょう。ただし、全日程の問題に幅広く注意を払ってください。そうすると、古代から現代にまでいたる歴史全体の流れを偏らずに勉強することになるはずです。その際、知識の記憶よりも流れの理解に重点をおいた勉強をしてください。知識は、「わかる」ことによって定着するものです。勉強に近道や抜け道はありません。日頃の着実な積み重ねが大事だと思います。健闘を祈ります。

合格への道

受験生へのアドバイス[一般入学試験・前期日程]

2017年度入学試験を振り返って

■出題のねらい

地理の学習が扱う内容は、世界の自然環境、資源と産業・貿易、生活と文化、人口や都市の問題、地図や読図など多方面に渡り、かつ相互に関連し合い総合的です。幅広い学習の達成度が得点に反映されるように、どの日程の出題においても、問題で取り上げる主題の領域が広範囲にわたり、かつ日本と世界の諸地域の間でも、地域的に偏りなく出題するように配慮しています。いずれにせよ大切なのは、基礎的事項の正確な理解と、その上で諸処の事項を関連させて理解する応用的な思考力です。出題のねらいはそのような着実かつ柔軟な学習の達成度を問うことにあります。

■答案を採点して

A日程:[I]環境問題に関する問題。正答率はまずまずでした。[II]農業に関する問題。正答率はまずまずでした。[III]生活文化と宗教に関する問題。正答率はやや低めでした。[IV]ラテンアメリカに関する地誌問題。正答率はまずまずでした。全体の平均点はまずまずで、全体的には標準レベルの問題だったといえます。

B日程:[I]世界の自然環境に関する問題。正答率はまずまずでした。[II]貿易に関する問題。正答率はまずまずでした。[III]都市に関する問題。正答率はやや低めでした。[IV]ヨーロッパに関する地誌問題。正答率は低めでした。全体の平均点は低めで、難易度の高い問題であったといえます。

C日程:[I]世界の地形に関する問題。正答率は低めでした。[II]交通・通信に関する問題。正答率はまずまずでした。[III]人口に関する問題。正答率はまずまずでした。[IV]アフリカに関する地誌問題。正答率はまずまずでした。全体の平均点はやや低めで、少し難易度の高い問題であったといえます。

■出題のねらい

出題のねらいは、高校の授業で説明されることを理解しているか、教科書や資料集で説明されていることを理解しているかを、確認することにあります。さらに、高校の授業で説明される情報を活用すれば理解できるような時事問題に関して考えることができるかについても、確認します。各日程で、政治と経済の分野に関する大問を出題し、さまざまなことから関する理解を確認します。

■答案を採点して

A日程、B日程、C日程では、マークシートで回答する問題と、記述で解答する問題の両方が、D日程とE日程では、マークシートで解答する問題を、出題しました。出題した問題の正答率の平均を日程ごとに見ると、およそ6割から7割でした。

確実に点を取っていくためには、高校の授業や教科書で説明されることを理解しておくことが、重要です。用語だけでなく、用語の意味、制度の全体の仕組み、時間上の流れなども理解しましょう。

教科書に太字で書かれている用語を、選択肢で選ぶ、または、記述するだけでは、正解にならない場合があります。応用して使うことができるように、情報を理解しましょう。

記述での解答が求められている問題で、漢字を正確に書くことができないと、点数を落とす場合もあります。細かく注意を払って正確に漢字を書き、読んで理解できる文を書くよう、心がけましょう。

■受験生へのアドバイス

第一に、教科書で説明されていることを理解しましょう。試験で確認したいのは、高校の授業で説明されることを理解しているかどうかということ

D日程:[I]地球環境に関する問題。正答率はやや高めでした。[II]観光に関する問題。正答率はまずまずでした。[III]富山県砺波市・南砺市付近の地形図の読図と集落に関する問題。正答率はやや低めでした。[IV]東南アジアに関する地誌問題。正答率はやや低めでした。全体の平均点はまずまずで、標準レベルの問題であったといえます。

E日程:[I]JR三江線沿線地域の地形図の読図問題。正答率はやや低めでした。[II]世界と日本の水産業に関する問題。正答率はまずまずでした。[III]生活文化と民族・領土に関する問題。正答率はやや低めでした。[IV]アメリカ合衆国に関する地誌問題。正答率はまずまずでした。全体の平均点はやや低めで、全体的には少し難易度の高い問題であったといえます。

■受験生へのアドバイス

2017年度は昨年度に引き続き、わずかですが記述解答がありました。来年度以降も、マーク・記述併用となる可能性があります。世界の国々や日本の都道府県の地図上の位置を憶えておくことも重要です。統計については、統計表にある国の順位を正確に暗記することが重要なではありません。その背景にあることを理解していれば解ける問題が多いはず。近年は、正誤判定問題も多く出題しています。これは、用語や事象について、その原因や背景を含めた正確な理解が必要となるので、その点に留意して学習を進めて下さい。さらに、教科書以外に新聞やテレビのニュースに関心を持ち、地理に関わりのある報道・話題はその機会に頭に留めておきましょう。

す。そのため、授業で使われている教科書を理解するという事は、重要です。太字の用語だけを覚え、切り取られた無意味な言葉を頭に詰め込むというよりも、用語の意味、制度の全体的な仕組み、時間上の流れなどを理解することで、基本的な情報を理解しながら、それを応用できる準備しておく必要があります。

第二に、授業で使われる資料集で示されている情報を確認しましょう。資料集には、重要な情報があります。表にまとめられた情報、数値で表現された情報、図示された情報は、理解の助けにもなります。教科書で示されている表や図といっしょに、確認しておきましょう。そうすることで、応用のきかない用語の記憶だけに時間を割いてしまうことなく、全体像、関係性、時間上の流れを理解しましょう。

第三に、分野を限定せずに、教科書の全体を勉強しましょう。出題される問題は、政治や経済のどちらかが極端に多いということはありません。そのため、政治の分野も経済の分野も勉強しておく必要があります。また、政治の分野の中や、経済の分野の中でも、特定の部分に絞ることなく、いろいろな部分の情報を使って出題されます。そのため、勉強する分野と勉強しない分野をつくることなく、教科書で扱われているすべての分野を勉強しましょう。

最後に、時事問題に関心を持ちましょう。時事問題を使って、出題される場合もあります。授業で説明される情報を知っていれば、理解できる時事問題があります。ニュースは難しいと考えるのではなく、わからないことであっても、徐々に理解していこうと考えて、関心を持っておくと、試験で解答をするときに、役立ちます。

■出題のねらい

中学・高校で学習した数学の基礎学力(基礎概念の理解、論理の展開、計算力等)が身についているかどうか判定できるような問題を出题した。本学は文系の大学であるが、文系でも論理的な思考能力も必要であり、また数学・統計を使う分野も多い。

■答案を採点して

B日程の経済学部を除く[I]は穴埋め問題であり、記述式の問題と違って途中経過が採点の対象とならないので、計算ミスや解答の書き間違いは致命的である。また、要求された形で解答する必要がある。なお、数学の解答の数値や数式はなるべく整理した形で書き、分数も既約分数の形で表すのが常識である。

[II]、[III]は記述式の問題なので、途中経過を論理的に説明しなければならない。そのような答案ならば、最後までできていなくても、できているところまでは評価されるが、答のみの答案や、計算用紙に書きなぐったような答案などは、数学の答案とはみなされない。記述式の問題が苦手な人は、教科書の例題の解答などを参考にして、途中経過を書く練習をしてほしい。

今回はA日程の[III](2)などがやや難しかったようであった。A日程の[III]は、 $n(n+36)$ (n は自然数)という形の平方数を求める問題である。自然数 n に対して、 $n(n+36)$ が平方数であるとき、 $n(n+36)=(n+k)^2$ を満たす自然数 k が存在する。(1)はこの k が偶数であることを示す問題であるが、この式から

$$k^2=2n(18-k)\cdots①$$

であるので、 k が偶数であることがわかる。(1)はおおむねよくできていた。(2)は $n(n+36)$ の形の平方数を具体的に求める問題で、①より k は16以下の偶数の自然数なので、①に $k=2,4,\dots,16$ を順次代入して、①を満たす自然数 k と n を求めればよいのであるが、完全にできている答案は少なかった。E日程の[III]は、曲線 $y=x^2$ と直線 $y=mx+2$ (m は定数)で囲まれる図形の面積の問題である。(1)で面積を m を用いて表し、(2)で面積の最小値とそのときの m の値を求めるのであるが、(1)では積分記号がついた式のままで終わっている答案が多いのに驚いた。(2)も最小値と m の値はあっているが、その根拠が書いていない答案が散見されたが、(1)で積分を計算して面積を求めると、そこから(2)の答は容易に得られるのである。一方、B日程の経済学部の[III](2)などはよくできていた。

■受験生へのアドバイス

教科書にある基礎事項を納得がいくまでしっかり学習し、理解するように努力することが重要である。練習問題を多く解かないと、得た知識を自由に使いこなすことができないが、解法のマニュアルを鵜呑みにして、パターン認識で問題を処理するだけでは、本当の学力はつかない。なぜそういう解き方をするとよいのかを考え、理解することが大切である。受験勉強に限らず、どんなことでも自分の頭で考えてみるという態度が大変大切であると思われる。

■出題のねらい

本学の生物基礎・生物の入試は、平均して60%程度の正答率を目標に設問を作成しています。生物基礎の設問は、高等学校教科書の内容である「生物と遺伝子」、「生物の体内環境の維持」、「生物の多様性と生態系」から出題しています。生物は、「生命現象と物質」「生殖と発生」「生物の環境応答」から出題しています。生物基礎では生命科学理解の基礎となる知識を問ひ、生物では生命現象をさらに広範囲に扱い、原理原則の理解を問う内容が中心となっています。生命の成り立ちや仕組み、ヒトを取り巻く環境について十分に理解していることが求められます。出題は、すべて選択問題によって構成されています。

■答案を採点して

生物基礎・生物の出題では、選択肢の中から正しいあるいは誤りを含む語句・説明文を選ぶ形式で出題されました。例えば、A日程[I]の間1~4やB日程[I]の間4~6では、遺伝子の構造や働きが、B日程[I]の間2、3やD日程[IV]の間2では、細胞内小器官の働きが問われました。これらは、生命の理解における基礎的な問題であり、複数の日程で出題されました。また、実験や観察の手順や意味を問う問題も出題しており、A日程[I]の間5やE日程[IV]の間6では、DNAを抽出するための手順を理解しているかが出題されました。また、B日程の[II]や[V]、D日程[V]およびE日程[V]ではヒトの身体の仕組みを理解しているかが問われました。D日程[VI]では生態系内の物質循環、E日程[VI]では植生の多様性の理解が問われました。全体を通してみると、極端に正答率の低い分野はなく、標準的な難易度であったと思われる。教科書をベースにして基礎的な情報を押さえおけば正答を導くことができたと考えられます。

■受験生へのアドバイス

まずは、本学の入試要項を確認し、試験範囲を正確に把握しておいてください。教科書の内容をきちんと理解しているかどうかを試す知識問題が中心なので、教科書を中心とした学習で知識を増やしておいてください。生物は、私たちヒトを含む生物の成り立ちやヒトを取り巻く環境を理解するための基本となる内容を扱っています。表面的な知識を単純に覚えようとするだけでは、理解が進みません。教科書内の写真や図、表を参考にしながらイメージし、時には自分や身の周りの環境に置き換えたりすることも理解を深めるために役立つでしょう。教科書にある「観察・実験」や「思考、発展学習」の部分もしっかり学習し、実践的な問題にも対応できるようになっておきましょう。

合格への道

受験生へのアドバイス[一般入学試験・前期日程]

2017年度入学試験を振り返って

■出題のねらい

本学の化学基礎・生物基礎入試ともに、平均して60%程度の正答率を目標に設問を作成しており、基礎的な内容を正確に理解することが期待されます。

化学基礎の設問は、高等学校教科書の化学基礎の範囲の全内容について出題しています。とくに、「物質の構成」、「化学結合」、「物質の変化」の各内容について、化学の理解に必要な用語や化学現象に関する基礎的な内容を十分に理解しているかどうか設問され、選択問題と記述式問題から構成されています。

生物基礎の設問は、高等学校教科書の生物基礎の内容である「生物と遺伝子」、「生物の体内環境の維持」、「生物の多様性と生態系」から出題しています。生命科学理解の基礎となる知識を問う内容となっています。生命の成り立ちや仕組み、ヒトを取り巻く環境について十分に理解しているかどうかを問う選択問題によって構成されています。

■答案を採点して

化学基礎の出題では、選択肢の中から正しいあるいは誤りを含む語句・説明文・物質名などを選択して、その番号や化学式を記述する問題が出題されています。例えば、D日程〔I〕の問1、問2、問4、E日程〔I〕の問1、問2、問4などでは用語の意味を正しく理解しているかを質問しています。また、D日程〔II〕の問1、問3、E日程〔I〕の問3、〔II〕の問〔I〕などでは、化学構造・物質を記述する用語・方法を理解しているかを設問しています。化学反応については主に「酸と塩基の反応」と「酸化還元反応」について両日程とも出題され、これらの現象を理解しているかどうか設問されています。全体的には、計算問題や酸化還元反応に関する問題などの一部を除いて良くできており、標準レベルの難易度でした。従って、教科書をまんべんなく丁寧に学習すれば、それほど難しい問題ではないでしょう。

生物基礎の出題では、選択肢の中から正しいあるいは誤りを含む語句・説明文を選ぶ形式で出題されました。例えば、D日程〔V〕の問1、問2では細胞内小器官の働きが問われ、E日程〔I〕の問1～問4では遺伝子およびタンパク質の構造が問われました。これらは、生命の理解に不可欠な基礎的な問題といえます。また、D日程〔V〕およびE日程〔V〕ではヒトの身体の仕組みを理解しているかどうか問われま

した。D日程〔VI〕では生態系内の物質循環、E日程〔VI〕では植生の多様性の理解が問われました。極端に正答率の低い問題は少なく、標準的な難易度であったと思われます。教科書をベースにして基礎的な情報を押さえておけば正答を導くことができたと考えられます。一方で、D日程〔IV〕問4や〔V〕問6のように簡単な計算を必要とする問題も出題されましたが、正答率がやや低かったようですので、こういった問題にも慣れておく必要があるでしょう。

■受験生へのアドバイス

理科の勉強では、教科書に書かれていることを暗記することが大事であると誤解していることがあるようです。しかし、知識は覚えるのではなく、正確に理解することが大事です。また基礎に重点を置く積み重ねの勉強が大切です。

化学はミクロの世界を扱うので、授業を聞いたり教科書を読むだけで理解することはなかなか難しいようです。そこで、原子・分子などのミクロの世界を自分なりに思い描くと理解が進むでしょう。また、勉強の積み重ねが大切です。化学基礎の範囲は教科書にもよりますが、前半と後半に大きく分けることができます。前半は「物質の構成+化学結合」で化学物質の世界の土台を学び、後半は「物質の変化」で酸と塩基の反応と酸化還元反応を中心とした化学反応について学びます。前半をミクロの世界を思い描きながら丁寧に理解し積み重ねることで、後半の理解も進みます。後半が分からなくなったら、前半を見直して下さい。大学入学後もこのような勉強方法が色々な場面で役立つでしょう。

生物基礎は、私たち自身であるヒトの成り立ちやヒトを取り巻く環境を理解するための基本となる内容を扱っています。表面的な知識を単純に覚えようとするだけでは、理解が進みません。教科書内の写真や図、表を参考にしながらイメージし、時には自分や身の周りの環境に置き換えたりすることも理解を深めるために役立つでしょう。生物基礎の教科書にある「観察・実験」や「思考、発展学習」の部分もしっかり学習し、実践的な問題にも対応できるようになっておきましょう。

合格への道

入学試験Q&A

Q 学部間の併願はできますか？

一般入学試験(前期日程)の併願について

A 一般入学試験(前期日程)では、前期A日程(2/1(木))、B日程(2/2(金))、C日程(2/3(土))、D日程(2/4(日))、E日程(2/5(月))を利用して、試験日が異なれば、同一または異なる学部・学科・専攻を併願することができます。1日につき1出願となりますので、最大5出願が可能です。

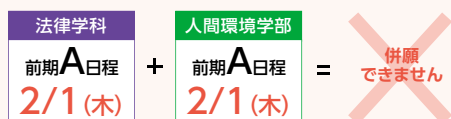
例1 異なる試験日に健康科学部健康栄養学科を併願する場合



例2 異なる試験日に商学部経営学科と経済科学部現代経済学科を併願する場合



例3 同一日に複数の学部を併願する場合



一般入学試験(後期日程)の併願について

A 一般入学試験(後期日程)では、1回の受験で全ての学部・学科・専攻に出願できます。(最大13出願)

大学入試センター試験利用入学試験の併願について

A センター利用入学試験では、全ての学部・学科・専攻に併願できます。前期日程、後期日程で、それぞれ最大13出願が可能です。

Q インターネット出願のメリットについて教えてください。

A 受験生のみなさんの出願にかかる時間と費用の負担が大きく軽減されることです。一般入学試験と大学入試センター試験利用入学試験を同時にセットで出願すると、割引となり、みなさんの経済的負担の軽減に大きく貢献します。また、入学試験要項の取り寄せが不要で、専用ウェブページから24時間出願が可能です。検定料もクレジットカードやコンビニエンスストア、ATM等での検定料支払いが出来るので非常に便利です。さらに、システム上のチェックにより、出願ミスや検定料の計算ミスがなくなり安心です。

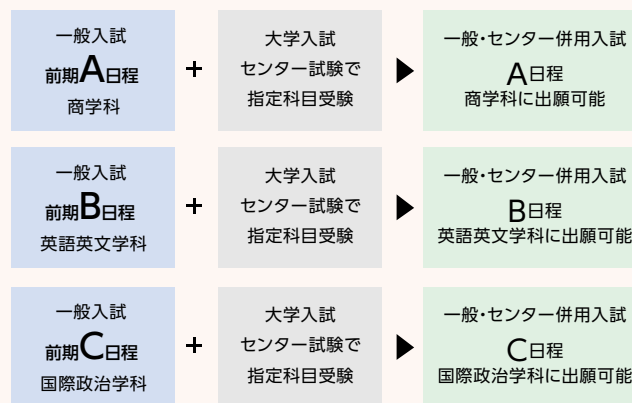
インターネット出願の詳細は本学ホームページで確認してください。

Q 一般・センター併用入学試験の出願方法について教えてください。

一般・センター併用入学試験の出願について

A 法律学科を除く全学科において、一般入学試験(前期日程)で出願した同一日程・同一学部・学科・専攻について、さらに一般・センター併用入学試験にも出願できます(1月実施の大学入試センター試験で指定科目を受験していることが条件です)。一般入学試験において、前期A日程商学科を受験した場合は、一般・センター併用入学試験もA日程商学科、前期B日程英語英文学科を受験した場合は、一般・センター併用入学試験もB日程英語英文学科というように同一日程に出願が可能です。

例



Q 一般入学試験の基準点は設けていますか？

A 基準点は一切設けていません。したがって仮に1科目の得点が低くても総合点が良ければ合格できます。

Q 一般入学試験は記述式ですか、マークシート方式ですか？

A 全部または一部マークシート方式で実施します。ただし、数学についてはすべて記述式で実施します。

Q 本学試験と地方試験とでは有利、不利がありますか？

A 本学試験と地方試験は、同一問題で同一日に実施しますので、有利、不利はまったくありません。

Q 受験生の宿泊施設は紹介していただけますか？

A 入学試験要項(願書)の中に宿泊案内を掲載していますので、各自申し込みをしてください。

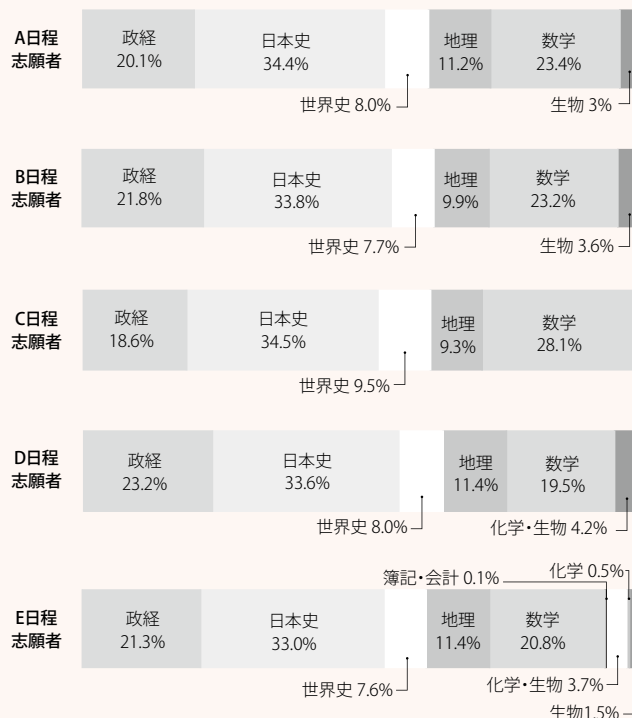
合格への道

入学試験Q&A

Q 一般入学試験では選択科目によって有利、不利はあるのでしょうか？

A 選択科目は科目間の調整を行うため中央値補正法を取り入れております。これにより選択科目の違いによる有利、不利はありません。昨年度志願者の科目別の選択割合は、A・B・C・D・E日程の合計で、政経1,018名(21.3%)、日本史1,611名(33.8%)、世界史381名(8.0%)、地理520名(10.9%)、数学1,060名(22.2%)、簿記・会計2名(0.1%)でした。

●一般入学試験(前期日程)選択科目別の選択割合(2017年度入試)
(少数点第2位四捨五入)



Q すでに、一般入学試験前期日程、センター利用入学試験前期日程または一般・センター併用入学試験で第2志望の学部合格しながら、一般入学試験後期日程またはセンター利用入学試験後期日程で第1志望の学部を受験することはできますか？

A 再度受験できます。一般入学試験前期日程、センター利用入学試験前期日程または一般・センター併用入学試験で合格し、納入していた入学金を後期日程で合格した第1志望の学部・学科・専攻に振り替えることができます。これにより、入学金を重複して納入する必要もありません。詳細は合格者に送付する入学手続要項で確認してください。

Q センター利用入学試験の選択科目のうち、2科目以上受験した場合はどうなりますか？

A 受験した科目のうち、最高得点の科目を採用して、合否を判定します。

Q 試験当日、どんなことに注意をすればよいですか？

A ①入学試験要項にある時間を守り、早めに入室してください(各時限とも試験開始後20分までの遅刻は認めませんが、それ以降は入室できません)。
②受験票は必ず持ってきてください。受験票・写真票は、インターネット出願の画面から各自でプリントアウトして当日必ず持参してください。

Q 広島修道大学の入試難易度、偏差値についてどのように考えたらよいか教えてください。

A 難易度あるいは偏差値によって、合格できそうな大学を選択するという現状は好ましいものではありません。大学はそれぞれの教育理念を大事にして教育研究を行っています。そして、大学入試は受験産業の偏差値で決まるのではなく、大学独自の入学試験によって合否が決定されるのです。受験生のみなさんは、絶対にこの大学で勉強したいという強い意志を持ち、勉学に打ち込んでください。また、大学選択については、自分が将来進みたい道、何をやりたいかを考え、それに合った学部・学科・専攻を選ぶことが大切です。

Q 推薦入学試験やAO入学試験で不合格になった場合、一般入学試験、センター利用入学試験、一般・センター併用入学試験は受験できますか？

A 受験できます。改めて出願手続を行ってください。

Q 合格した場合、入学前に必要となる費用はどのくらいですか？

A 入学の手続は、分割手続または一括手続のどちらかを選択することができます。社会人入学試験、外国人留学生入学試験の手続は一括手続となります。手続期間や手続方法については、あらかじめ入学試験要項などで確認しておいてください。(P.102参照)